

令和5年2月1日

自由民主党 絆

代表 増田 一喜 様


八代市議会自由民主党 絆

管外行政視察復命書

視察期間 令和5年1月11日(水)～13日(金)

視察先 沖縄県糸満市～石垣市

参加者 議員 増田 一喜 

議員 橋本 貴喜 

議員 村川 清則 

自由民主党 礎・絆・和 視察所見

議員名【 増田 一喜 】

- ◆ 視 察 日：令和5年1月11日（水）
- ◆ 視 察 先：沖縄県糸満市
- ◆ 調 査 項 目：農業の振興について、観光・リゾート産業の振興について

農業の振興について

糸満市における農産物は、サトウキビを基幹に野菜、花卉、果樹、そして肉用牛などが盛んである。

これは、国営地下ダムかんがいの整備がなされ、かん水利用が容易に行われる用になったことから、施設栽培を中心に多品目生産が特徴となっている。なかでも、ゴーヤ、レタス、人参、パッションフルーツ、小菊、マンゴー、きゅうり、そして肉用牛（子牛）の8品目は、沖縄県より農林水産戦略品目として拠点産地の認定を受けているとのことである。

しかしながら一方では、農業生産基盤の促進、農産物の品質向上、そして、耕作放棄地の対策が課題となっている。そのため、生産基盤や栽培施設の整備等が求められている。また、多様な資源活用のため農業用廃プラスチック処理や畜産廃棄物の利活用など、更なる充実を図る必要があるとのことである。

今後、農業振興を図っていくためには、持続的農業、国際規格への対応、そしてスマート農業など、新たな分野への施策展開も必要であるとして、「農業生産基盤施設の整備」、「農業生産の充実と観光農業の推進」、「耕作放棄地の解消」、「スマート農業の推進」、未利用資源の適正処理・利活用推進、「畜産業の活性化の推進」、「地下ダム受益地再編」などに、積極的に取り組んでいかれるとのことである。

八代市においても、農業は主要な産業の一つである。元々、本市は農業で栄えてきたところである。米を初めとして、トマト、イ草、生姜、蜜柑、晩白柚、キャベツ、白菜等々、盛んに作られ今日に至っている。

今では、トマトは生産日本一と言われるくらいである。また、晩白柚は国内のみならず台湾などへの輸出版売に取り組んでおり、徐々にその成果を上げてきているところである。

そして、イ草生産については生産農家が激減していたが、生産農家の要望もあり、日本文化の一つである畳を復活・持続させるため、中村市長はじめとする執行部と市議会い業振興議員連盟の主だった議員が連携・協力して、制作が終了されていたハーベスタというイ草生産農家に必要な機械の再制作を、県や国にそしてクボタ農機具株式会社根気よくお願いして、100台の限定ではあるが実現させたものである。

何事においても、行政と議会が連携・協力しなければ実現は難しいと実感した。

観光・リゾート産業の振興について

外国クルーズの受け入れや誘致について、糸満市としては、具体的な事業は特に行っていないが、その代わり民間事業者において、多様な受け入れ対応を行っている。

外国人への対応については、平成31年度に道の駅「いちまん」にw i f iやサイネージを設置した。また、市内主要観光施設（美々ビーチ、大度浜海岸、白銀堂、具志川城跡等）に、多言語看板を設置している。

観光資源の発掘、情報発信については、令和2年7月にオープンした「糸満市場いとまーる」は、糸満市公設市場をリニューアルし、観光施設としての機能も果たしており、また、令和4年4月にオープンした「シャボン玉石けんくる糸満」は、市のゲートウェイの機能を備えた文化・平和・観光振興センターの複合施設となっている。

そして、糸満の二大行事である糸満ハーレーや糸満大綱引が観光行事としても人気があり、多くの観光客をよんでいるところである。これらの行事は、もとは、漁業、農業を中心に生活していた時代に無病息災、家内安全や豊作を祈願して行われていた儀式であったが、今では観光行事としても大人気であるとのことである。

近年、八代港にも多数のクルーズ船が寄港し、ここを出発点に熊本城、阿蘇、人吉などの観光地巡りが盛んになり、2020年10月、本市の八代港に、クルーズ船受け入れ拠点「くまモンポート八代」が完成した。しかし、世界的に新型コロナウイルス感染症が広がり、開園することが出来ず、今日に至っている。

本市は海から山までと地形的の広がっており、名所、名跡等多々あるものの、これまで観光地としてあまり利用されていなかった。現在行っている事業は、球磨川河川敷で行われる「全国花火競技大会」、「九州国際スリーデーマーチ」、「妙見祭」などであるが、これらは、大勢の観客が訪れるけれども行事がある前日から当日までの賑わいであるため、本市全体としてはあまり収益には結びつかないようである。

そこで、観光都市として賑わいを図るなら、沢山ある名所、名跡を整備し、それらを巡るコース（1日コース、1泊2日コース等）を設定し、宿泊客を増やし、1年を通して観光客に来ていただけるようにすることが、今後の課題と考える。

自由民主党 礎・絆・和 視察所見

議員名【 増田 一喜 】

- ◆ 視 察 日：令和5年1月12日（木）
- ◆ 視 察 先：沖縄県石垣市
- ◆ 調 査 項 目：石垣島における農産物の現状と課題について
市内での消費動向と県外への販売経路の状況について

石垣島における農産物は、亜熱帯の地域特性を活かした、肉用牛の生産を中心に、さとうきび、パインアップル、水稻、葉タバコ、マンゴー等の熱帯果樹、花卉、野菜等の生産が行われている。

パインアップルには、ボゴール（JAではボゴットと呼称）、ソフトタッチ、ジュリオスター等、種類も豊富である。

これらパインアップルのブランド化には、地域団体での情報共有と情報発信が必要である。そのための主な取組として、小学校の給食に使用し、また、東京の池袋に「池袋サンシャインシティ沖縄展」を出店して、試食・販売会を実施しているとのことである。

本市でも、東京にトマトや野菜、また、畳表などのイ草製品等々の展示販売を行なっている。どこの自治体も地場の生産物をお客様により多く購入してもらうために一生懸命努力していることが窺える。

特に、果物やジュウス等の加工品は試食・試飲して頂き、その味を感じてもらうことが大切ではないかと思う。人それぞれに感じ方は違うけれど、おいしいと感じた方は、自分でも購入し、周りの知人にもそのおいしさを広めてくれるものである。そのような方法を利用することも必要であると思う。

自由民主党 礎・絆・和 視察所見

議員名【 増田 一喜 】

- ◆ 視 察 日：令和5年1月13日（金）
- ◆ 視 察 先：沖縄県石垣市 本原畳店
- ◆ 調 査 項 目：石垣島におけるイ草生産について

本原畳店において、店主の本原氏からお話を伺った。

本原畳店は、1946年に石垣島において操業し、八重山諸島全域の畳工事を請け負ってきており、2011年に三代目として事業継承した後は、ビーグとミンサー柄畳縁にこだわった畳をつくっているとのことである。

沖縄本島うるま市で生産されている「沖縄県産ビーグ」は、石垣島では畳になじみのある人々からは、「オキナワビー」と呼ばれ、「畳はオキナワビーじゃない」という方も沢山おられ、そこで、2013年に、うるま市のイ草農家から株分けをしてもらい、沖縄県産ビーグの新たな担い手となるべく、5年かけて試行錯誤を繰り返して、2018年にようやく初収穫ができたとのことである。

また、これまではほとんど手作業であったが、1昨年前に、熊本県にイ草収穫用のコンバインがあるということを知り、熊本県に対し、1台分けとくれるように根気よくお願いしたところ快く分けて頂き、。今はそのコンバインを使って収穫しており、大変助かっているとのことである。

イ草用コンバインはすでに生産終了となっており、新品は無くなっていたが、4～5年前から、本市の中村市長をはじめ執行部、市議会議員が連携して、クボタ農機具株式会社に対して、根気よくお願いした結果、100台限定で出来た製品である。

何事も熱意を持って、根気よく、丁寧に説明しお願いすること大切であるということをつくづく実感した。

自由民主党 礎・絆・和 視察所見

議員名【 橋本 貴喜 】

- ◆視察日：令和5年1月11日（水）
- ◆視察先：沖縄県糸満市
- ◆調査項目：農業の振興について、観光・リゾート産業の振興について

・農業の振興について

糸満市の農業は、さとうきびを基幹にして、野菜・花卉・畜産などの多品目生産を特徴としている。課題として、農業生産基盤整備の促進、農産物の品質向上、耕作放棄地などがある。課題解決と今後の農業振興を図る取組みとして

・農業生産基盤施設の整備及び利用促進

・農業生産の充実と観光農業の推進

・耕作放棄地の解消

・スマート農業の推進

・未利用資源の適正処理・利活用推進

・畜産業の活性化の推進

・地下ダム受益地再編

を掲げられている。

スマート農業について、行政主導で民間企業と共同して農作業の効率化に取り組まれていた。本市においてもスマート農業の導入を目指しているところである。ドローンの導入等進んでいるが、糸満市のような進め方を行っていくことも必要と考える。

観光・リゾート産業の振興について

糸満市は、那覇市からも近く観光・リゾート産業も盛んである。

- ・外国クルーズ（インバウンド）の受入れ、対策及び誘致
- ・観光資源の発掘、情報発信
- ・観光業、商工業に対する補助金制度等

糸満市は、那覇市に隣接する都市であり、観光資源が豊富である。また、プロ野球やJリーグの複数チームがキャンプ地として利用している。スポーツ施設やホテル施設に積極的に投資しているのが印象的であった。本市が目指すべき観光産業の在り方に向け、環境整備や民間企業の投資を促していくことが今後重要であると考え。

自由民主党 礎・絆・和 視察所見

議員名【 橋本 貴喜 】

- ◆視察日：令和元5年1月12日（木）
- ◆視察先：沖縄県石垣市
- ◆調査項目：石垣島における農産物の現状と課題について
市内での消費動向と県外への販売経路の状況について 他

石垣市は亜熱帯に位置し、地域特性を活かして肉用牛の生産を中心に、さとうきび・パイナップル・水稲・葉タバコ・マンゴー等の熱帯果樹・花卉・野菜等の生産が多様に展開されている。農家数の減少や有害鳥獣対策、PR不足、特産品が冬場に不足することが課題となっている。有害鳥獣対策として、ICTを活用して無人罠を設置している。PRについては、市長を筆頭に全国各地へ赴き、パイナップルやマンゴーを中心に精力的に行われている。地産地消については、学校給食に積極的に提供され若年層にも周知されている。ブランド化への取組として、石垣牛は平成13年の沖縄サミットで名声が高まったが、協議会で、定義づけ及び流通体系の確立と品質管理の徹底について取り決めを行った。さらに、生産推進事業として、多様な補助事業を実施している。

本市は、いぐさ・トマト・晩白柚等の柑橘類・露地野菜と多くの

生産品目がある。石垣市で生産されているものの多くは南国を連想
することが出来る。今後の本市のブランド化やPRに対しては、熊
本や八代をもっとイメージしやすいような戦略が必要になってくる
と考える。

自由民主党 礎・絆・和 視察所見

議員名【 橋本 貴喜 】

- ◆視察日：令和元5年1月18日（金）
- ◆視察先：本原豊店
- ◆調査項目：

「世のため人のため、喜びをともに」を企業理念とし、自家栽培で石垣島産い草「八重山育ち」の生産、販売に取り組まれている。豊を通して、石垣島からたくさんの方々をつながりたいと考え活動されている。ほとんど生産されることがなくなった「ビーク表」や「七島表」を生産から取組まれ、沖縄の伝統を残そうとされている。また、豊縁には、石垣島独自のミンサー柄を入れたオリジナル縁を使用されていた。郷土を愛する強い気持ちに触れることが出来た。

現在本原豊店では、八代産の豊にこだわって使用されており、今後もこのようなニーズに応えるため、産地として、いぐさ生産量を一定数確保していくことが必要であると考えている。

自由民主党 礎・絆・和 視察所見

議員名【 村川 清則 】

- ◆視察日：令和5年1月11日（水）
- ◆視察先：沖縄県糸満市
- ◆調査項目：農業の振興について、観光・リゾート産業の振興について

糸満市は元々プロ野球のロッテやサッカーのベガルタ仙台、FC東京などがキャンプを行ったり、ひめゆりの塔や摩文仁の丘など有名な観光スポット（戦没者や遺族に対しいへん失礼な表現であるが）を有する地であるが、毎年観光協会育成補助金などにより様々な支援事業や誘客促進事業を行っている。

のんびりと観光して頂こうと、中古の電気ゴルフカートを購入し観光客に提供している。またジャングルなどをバギーで廻る体験ツアーも行っている。

従来八月に開催していた糸満ふるさと祭りはコロナの影響で開催できなかったが、本年の一月に再開することができたようだ。

プレミアム商品券事業は、まだデジタル仕様ではなく従来の紙の商品券を発行している。

市の農業は、サトウキビを基幹に野菜・花キ・果樹・肉用牛などが盛んで、国営地下ダムかんがいの整備により灌水利用が容易に行われるようになった。

め多くの品目が生産されるようになった。スマート農業を目指し KDDI ウェブ
コミュニケーションの協力のもと平成 30 年から実証実験を行い、小菊栽培では
夜間の電照切れやマンゴー栽培での温度管理などかなり成果も上がった。そこ
でその情報や機器購入の補助に対する説明会を農家に対し実施したが、残念な
がら申請が 13 件しかなかったと肩を落としておられた。しかし農作業の効率
化を図るため今後もさらなる実証実験を続け、スマート農業の普及につなげた
いとしている。八代市においては若手トマト農家を中心に土耕養液栽培や環境
制御などの面で普及しつつあるが、あくまでも品質面・特に糖度・酸味のバ
ランスなど美味しさの面で効果が出るような技術であってほしいと願っている。

自由民主党 礎・絆・和 視察所見

議員名【 村川 清則 】

- ◆視察日：令和元5年1月12日（木）
- ◆視察先：沖縄県石垣市
- ◆調査項目：石垣島における農産物の現状と課題について
市内での消費動向と県外への販売経路の状況について 他

サトウキビは年間10万トンが12月から4月まで収穫される。大型ハーベスターが約30台導入されており労働力軽減に役立っている。

特産品のパイナップルは、品種によって糖度18・9度から14・8度まで幅広くあり、イオン名古屋ドーム前店や銀座千疋屋などで試食宣伝会を開催、市長自らマイクを握られたこともあるそうである。宣伝のため毎年東京の学校給食にデザートとして提供していたがコロナ禍で低迷、改めて地元石垣市の学校給食で行ったら灯台下暗しで、地元の児童・生徒はおいしい石垣のパインを食べたことがなかったという発見があったとのこと。地産地消を再認識と言ったところであろう。

離島なので流通は飛行機頼りである。コロナ禍はチャーター便によりパイナップル・マンゴー・クルマ海老・クロマグロなど1回最大30トン都市部へ輸送するとのことである。

沖縄銘菓「紅いもタルト」はコロナ禍で観光客が激減したため当然売り上げ

も減少、その対処にたいへん苦慮されたようである。なお、原料のカンショ（沖
夢紫）は害虫イモゾウムシの繁殖を防ぐため、熱処理しなければ島外へ出荷で
きないとのことで空港でも啓発のためポスターが掲げてあった。

有害鳥獣としてはイノシシ・キジ・カラスなどがいるが、中でも倒産したホ
テルから逃げ出したクジャクが野生化し繁殖、大きな問題となっている。本県
でも宇土半島でペットとして飼育され、飼いきれなくなり放棄された台湾リス
の問題があり、決して対岸の火事ではないと感じたところである。

「石垣牛」の名称で名高い肉用牛は、農業生産学（約98億円）の約7割弱を
占めており、1頭1,000万円の値が付くこともあるそうである。ここまで有名に
なったのは何よりJAや生産者の頑張りが大きいとのこと。「HACCP」の認証
も取得済みで、これから海外への輸出も視野に入れているとのことであった。

自由民主党 礎・絆・和 視察所見

議員名【 村川 清則 】

◆視察日：令和元5年1月18日（金）

◆視察先：本原畳店

◆調査項目：

今回の視察研修で初めて「沖縄ビーグ」というイ草を知ったが、その衰退ぶり
は本市のイ草とは比較にならない程、危機的である。そこで強い危機感を持つ
た店主が自らうるま市の農家から譲り受けた沖縄ビーグの株を試行錯誤の上、
数年かけて収穫にこぎつけたものである。まだまだ面積的には小さいが、その
意気込みには感心させられる。

カヤツリグサは八代イ草より茎は数倍大きく三角形であり、120cm位に成長し
たものをハーベスターで刈り取り、泥染はせずに裂いて乾燥後畳表に加工す
る。

本原畳店では琉球畳の他、八代産QRコード付き畳表・中国産表・和紙畳を
含む化学表などを扱っている。またオリジナルの畳雑貨ブランド「畳嫁」も展開
中である。財布やポーチなどいろいろなアイテムがあるが、特に売れ残り畳を
利用し「いつ世畳」の名称で、棺桶の蓋に使用するなどアイデアも豊富である。

本市が全国に誇るイ産業であるが、残念ながら年々作付け面積・栽培農家数と
もに減少の一途をたどっているのが現状であろう。本市議会自民党会派の中に

イ草生産者が一名、畳業者が一名いるが兩名のみならず本市議会の一員として
大いに勇気付けられる視察研修であった。